

大阪本部「秋之例大祭」盛大・厳粛に挙行
(10月11日)
—台風14号も南下し、青空広がり
コロナ禍なれど例年通りに—

本日は、寶生教大阪本部秋之例大祭、誠にめでたうございます。西播、養老兩教会、ご家族を始め教信徒の皆様、又、全国各地より御参集の本部教信徒の皆様、早朝よりようこそ御参拝下さいました。皆様の熱意溢れるご信仰に心より敬意を表します。天気予報では、台風14号が今日、大阪にやって来るといわれておりました。が、速度を早め、進路を変え、爽やかな秋空のもと、皆様と共に大祭を斎行することが出来ました。正に、大神様のお恵みによるものであることは申し上げるまでも無く、教信徒皆様の篤い信仰の賜物であると存じます。祭典中、舞臺「輪臺」を奉納致しました。雅やかに



ご教話・大阪本部長様

ご教話 「神の御心にそう。仕事は世の為、人の為。」



秋晴れの下、参道なざる、祭主・祭員の方々。

その影響が、八月の自殺者数が昨年を大きく上回ったことは、控えめにしか報道されていません。もう一つ、メディアが偏

祭典を彩っていただき、雅楽部皆様の日々の鍛練に、心より感謝致します。扱、今年は正にコロナ禍一色の一年。多くの方々がその影響を大なり小なり受けられたことでしょうか。し

かも、その殆どはあまり嬉しくないものだったと推察致します。今回のコロナ禍のマスクミなどによる報道を見るに付、物事の本質を見誤っていないかなと心配になったのは、皆様も同じではないでしょうか。例えば、五、八月あたりには、連日ワイドショーなどで必要以上にウイルスの危険性を訴え、ニュースでは、連日感染者数を報道し続けました。



奉納舞臺「輪臺」

特に日本では、万一感染しても重篤化する罹患者はごく僅かである事が判明しても、無症状の陽性者まで事細かに発表し、明らかに他の要因で亡くなった方についても、コロナ陽性であれば全てこのウイルスでの死者として発表しました。これでは、得も言われぬ不安に世の人々が恐怖するの、無理ないかも知れません。



発行所 寶生教大阪本部
大阪府西區北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

11月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動

令和3年度
『月並運勢表』
申込み受付(11/15~12/15)

教信徒の道しるべ。各家の来年度の月並運勢表を、左記の通り受付致します。

一、教会所定封筒に
住所、氏名、職業(具体的に)、来年の数え年を書きし、申込み幣帛料(金壹萬円)を中に入れて、開封のまま教会事務所へお出しください。

※新入会の方、初めて申込みされる方は、詳細等を遠慮なく教会事務所に、お聞きください。

一、申込みは教信徒で維持費納入者に限ります。
一、申込み期日は、十一月十五日より十二月十五日までです。
一、運勢表の授受は、令和三年元旦です。

一、運勢表の授受は、令和三年元旦です。

一、運勢表の授受は、令和三年元旦です。

一、運勢表の授受は、令和三年元旦です。

このヤルタ協定で対日戦後処理の一環として、モンゴルを二分してモンゴル人民共和国の現状維持が決められた結果、南モンゴルは中国に統治されることになった。日本の場合、千島列島をソ連に引き渡すと決められ、北方四島まで奪われた。このヤルタ会談に当のモンゴルも日本も参加していなかった。当事者のいない「協定」、しかも秘密の取引は国際法に違反しているのだが、その違法なヤルタ協定に基づく戦後体制によって、戦勝国モンゴルは固有の領土の半分を宿敵の中国に取られて今日に至る。その中国では、一九六六

年からの文化大革命期間中に、三十四万人ものモンゴル人が逮捕され、二七九〇〇人が殺害され、十二万人が暴力によって倒れた。モンゴル人民共和国でもスターリンの命令で一九三〇年代末に粛清が行われ、何万人ものエリートたちが命を失った。それでも、北モンゴルはソ連の援助でそれなりに近代化を実現させた。凄惨な生き方が強いられたのは南モンゴルの方だ。遊牧民の生活の基盤である草原は中国に奪われ、農地に改変され、結局は砂漠と化してしまった。中国は南モンゴルを『自治区』と称するが、実権はすべて外来の中国人の掌中に握られている。中国人の人口は先住民モンゴル人の十倍にも達しているからだ。二〇二〇年秋学期からはモンゴル語教育を禁止される方針が、習近平政権によって導入されることになった。このようなモンゴル人はどうすればいいのだろうか。誰も戦わずして中国からの独立が実現できるなどと夢を見ていない。戦勝国モンゴルと敗戦国日本の戦後史が戦争そのものの方に於いて、教え

という文章です。この文章のタイトルは、「戦わざるものに、独立なし」。正に国家を守る為に、軍隊を持つことは重要な事なのです。軍隊を持つと戦争が始まる、と仰る方が居られますが、そうではありません。軍隊は侵略する為にあるのではなく、自分たちの祖国を守る為にあるのです。国民一人ひとりが、大切

な祖国を、人任せにせず、自分たちで守るという気概を持ち続けなければならぬかと存じます。

日	行事	時間
十一月一日(日)	月並祭	午前十時
三日(祝)	西播教会秋之大祭	午前十時半
四日(水)	宝生会(滋賀CC)	午前十時
八日(日)	(御本宮月並祭) 御本宮遙拝式	午前九時
九日(月)	修 行	午前十一時
十五日(日)	教 祖 祭	午後七時
十五日(日)	月 並 祭	午後十時
十五日(日)	七五三参り	正午
十七日(火)	和歌山地区敬和会	
二二日(土)	名古屋地区敬和会	
二二日(日)	養老教会修行日	
二三日(祝)	東京地区敬和会	
二五日(水)	修 行 日	午前十一時
十二月一日(火)	大阪近郊地区合同敬和会	午後七時
五日(土)	月 並 祭	午後七時
五日(土)	養老教会修行日	午前十時
六日(日)	(御本宮月並祭) 御本宮遙拝式	午前九時
八日(火)	修 行 日	午前十一時
九日(水)	修 行 日	午後七時

つた報道をしている例を挙げましよう。

つい先日、東京都大田区の区議会で、ある議員が少子高齢化問題の中で、少数性的嗜好者を法律で保護する必要はないと思う、という主旨の発言をした際、ワイドショーでは挙つてこの発言を「差別、時代錯誤だ」とやり玉に挙げていました。「もし仮に世の中の人々全てが同性愛者になつてしまつたら、人類が終わつてしまう。」という発言です。

これは、自然界では、雌雄同体の性質を持つ生物以外、ごく当たり前の事を言っているのです。

コロナ禍にしても、少子高齢化にしても、国家の将来、国民の健康、民族存亡に関わる重要な事柄で、今の日本の状況は、正に国難とも云える状況です。



「輪臺」特別の兜を被り、副権現職夫人・多恵子様、本木裕子さん、西田清美さん、藏樂貴子さんが奉舞。

かうとき、先人たちは、自分のことはさておき、国家との信頼を更に強固なものにして乗り越えてきました。しかし、今年の夏のコロナ禍では、世論も、大方のメディアも、政府に我々の生命を守ってくれといったり、一旦感染が収束し、経済の悪化が表に出れば、政府の対応を非難し、給付金や支援金を出せという。

又政府も、世論の動向に振り回され、方針が打ち出せない状況が続きました。国難と云える状況で最も必要な、政府と国民の信頼が見られなかったように感じます。残念ながら現代の日本人の多くは、つい目先のことにとらわれすぎて、本当に大切な物事の本質を忘れてしまつていられるのかも知れません。



祭典開式、一同着座拝。

一例を挙げるとすれば、特殊詐欺、所謂、オレオレ詐欺の被害が一向に減らないのも、そう云つた社会の表れかも知れません。善良な皆様でしたらおおよそ考えもつかない、身体的にも弱者であるご老人方がこれまでコツコツ貯めてきた大切な老後の資金を、言葉巧みに騙し取ることを、平気でやる若者が思いがけず多く存在し、そんな彼らはそう云つた詐欺行為すら仕事と呼ぶのだそうです。仕事というものの本質を学ばずに大人になる若者が多いのかも知れません。

最後に、「仕事」というものの、美しくも素晴らしい本質を、その一生涯を通して、世の為に尽くすことに貫いた歴史上の偉人を紹介致します。緒方洪庵という人物です。江戸末期、岡山県に生を受け、主に大阪で活躍した蘭方医(オランダ医学者)です。彼は名を求めず、利を求めませんでした。

医学を学び、江戸、次いで長崎で坪井信道などに学び、二十九歳で大阪へ戻り、医者として活躍する傍ら、私塾「適塾」を開き、後進の育成にも努めました。適塾の卒業生たちの多くは、明治時代、日本の近代化に大きく貢献しました。その中でも有名な人物は、大日本帝国陸軍創始者といわれる大村益次郎や、慶応義塾大学創始者の福沢諭吉などです。その適塾の建物は、大阪市中央区北浜に今でも残っています。洪庵は晩年、幕府より、江戸にて將軍専属の医師になるよう命ぜられますが、断り続けます。

しかし、幕府からの再三の出向命令を無視することもある、五十三歳の時に江戸へ出向きますが、翌年あつてなく亡くなつてしましました。そんな洪庵は、常に自分に、そして塾生に、次のように戒めていたそうです。「医者がこの世で生活しているのは、人の為であつて、自分の為ではない。決して有名になろうと思ふな。利益を追おうとするな。自分を捨てて、人を救うことだけを考えよ。」

これが、いつの時代も変わらない、日本人の美しさ、日本人の本質ではないでしょうか。教信徒皆様が大神様、御教祖様、各家御祖先様方の守護の息吹に守られて、更にそれぞれが心豊かに日々を過ごされるよう、心より祈念申し上げます。

最後にになりましたが、総代始め参事、地区世話人、婦人世話人、青年部、宝寿会、又有志の皆様、台風接近の中で、数日間の熱意溢れるご奉仕のおかげで、本日の大祭が滞りなく斎行出来ました事を御礼申し上げます。本日の挨拶と致します。有り難う御座居ました。



大祭直会。森末悦楽さん「峨眉山月」①、岸田梯子さん、白井京子さん「千本桜」②、青年部役員紹介③と、盛り上がり好例のおさがり福当りの抽選が行なわれた。



と社会主義国家ソ連もいたので、イデオロギー(思想)による正義と非正義の区別は無意味だと証明された。これらの歴史を見れば、日本だけが非正義の戦争を起し、「侵略」された側にすべての正義があるという見方は成立しない。実は、日本の「戦争絶対悪」論という呪縛は、即ち正義対非正義の戦争観を敗戦国として受け入れた結果に過ぎないのだが、それが徹底的非武装論という次なる呪縛の温床となつた。

教話 自国を守る気概が大切

月並祭 (10月1日)

十月は「神無月」と申します。由来は諸説ありますが、神の無い月と書いても、神様が居られない月という意味ではありません。古文で「な」は接続詞で、現代文の「の」と同じ意味です。つまり「神の月」に漢字をあてたといわれております。

静岡大学教授で文化人類学者の楊海英氏が、ある寄稿をされました。楊氏はモンゴル出身なのですが、実はモンゴルという国は大変数奇な運命を辿る国なのです。私達の祖国日本は、大東亜戦争で残念ながら敗戦致しました。方や、日本がその一部を植民地化するなど、戦前から関与していたモンゴルという国は、中国と共に戦つておりましたので、実は戦勝国なのです。敗戦国である日本は、一度は焦土と化しましたが、経済成長を経て、現在恵まれた生活を送ることができ、世界的に見ても先進国に数えられます。

あるようなのです。「戦後七十五年も過ぎたというのに、敗戦国の日本はいまだに戦争の呪縛から解かれていない。ここでいう呪縛とは二つある。一つは、いかなる戦争も絶対悪だという偏った見方が根強く残っていることと、これがために日本人の思想的源泉は枯渇してしまつていいる。

もう一つは、現実離れした非武装論がはびこり、そのため日本は国家としての国際的立場を悪くしていることだ。敗戦国は「侵略」戦争を起こした非正義とみなされ、もう一方の戦勝国は「平和」の守護者たる正義の側に立つた。

正義の戦争観を打ち立てた西洋諸国も、苦渋の心情で植民地の独立を受け入れざるを得なかつたのではない。戦争は資本主義の悪で、社会主義国家はそれを行使しないという神話もあつた。しかし、一九七九年、中国とベトナムが社会主義国家同士で戦火を交えて、その神話を粉砕した。

領国の背後にはそれぞれ、資本主義国家アメリカ、中国とベトナムが社会主義国家同士で戦火を交えて、その神話を粉砕した。敵が隣入してきて、強盗の隣人が暴力を振るつた後に何が生じるかを想定しようとしなさい、思考停止した人たちの夢物語だ。それを信じられるのは、敵に占拠され、強盗に狼藉を働かれた後に待つのは国民の奴隷化、エリート層の殺戮だということを知らないからである。

一方で、戦勝国モンゴルは現在、大変難しい状況に

先形成し、定着して集落を襲い、征服し、自

わかれ人類、ホモサピ

しかし、その処理方法が

領国の背後にはそれぞれ

「戦勝国のモンゴルは日